

KOBELCO

Performance X Design

新型
ミニ

SK30SR
SK35SR

ミニショベルがモデルチェンジ 一度触れると忘れられない唯一無二の存在をめざして

コンパクトながら力強いパフォーマンスで、ハイパワーを体感。
オペレータ主体の機能美と快適性が、記憶に残る居心地。
全く新しい価値観を実現したコベルコ建機のミニショベル SK30SR/SK35SR が登場。



製品サイト

バケット掘削力向上

16% UP

(※従来機比)

エンジン出力向上

18.9kW / 2,400min-1

(※従来機比・FAN ナシ)



コベルコ建機株式会社

東京本社 / 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 ☎ 03-5789-2111

www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機 ニュース

Aug. 2023 Vol.261 夏季号

〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 コベルコ建機株式会社 ☎03-5789-2112

www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機株式会社

KOBELCO

夏季号

Aug.2023 Vol.261

コベルコ建設機械ニュース

特集 クレーン施工計画を最適化する
K-D2 PLANNER®の実力



コベルコ建機
公式SNSは
こちらから



X(旧:Twitter) Instagram

想定外のできごとが起こり得る土木建設現場において、手戻り防止に向けてあらゆる事態を想定し対策を立てておくことが、工期圧縮や生産性アップ、安全性向上などにつながる。そこでクレーンを知り尽くした建機メーカならではのシミュレーションソフト『K-D2 PLANNER®』がリリースされた。今回はその背景と事業化への経緯、ユーザの声などを紹介したい。

太田利之 = 取材・文 三浦伸一 = 撮影 (P4 ~ P7)
text by Toshiyuki Ota / photographs by Shinichi Miura



クレーン施工計画を最適化する

K-D2 PLANNER® の実力

theme
業界トレンド

今こそ業務の再点検・大改革を 土木建設業界の課題は待ったなし!

まず、『K-D2 PLANNER®』の製品背景となる土木建設業界のトレンドを、建設ITジャーナリストの家入龍太氏に語ってもらった。

● 土木建設業界の課題とソリューション

土木建設業界では人手不足、利益率の低迷、業務効率化の遅れなどの深刻化が叫ばれ続けています。なかでも工程や経営の効率化こそが、人手不足への対応や利益率アップへの鍵をも握っている点は見逃すことができません。つまり、属人性が高く労働集約的だった業務プロセスの改革と、個々人に閉じられがちだったノウハウの標準化と共有化を進め、生産性向上を図る構造的な変革が求められているのです。

測量～設計～施工～管理を貫くデジタルデータの活用によって、安全性向上や人手不足の解消、熟練技術の継承、生産性アップなどを図るソリューションこそが、建設業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の大きな狙いです。建設DXの核となるものに建造物のモデル化BIM（Building Information Modeling）や建



設情報のモデル化CIM（Construction Information Modeling）があり、いずれも目下、国交省を中心とした国家的施策として、推進されています。

● 業界改革のキーとなるデジタル戦略とは

BIM/CIMによるデジタルデータの活用は、想定外の事態も多い建設環境のなかで、設計変更への対応も容易になります。また、実際の施工前にさまざまな条件下でのシミュレーションが可能になるため、あらかじめトラブルの芽を摘んでおくことで、手戻りを廃しながら工期の圧縮なども実現するのです。

今、ものづくりを担う工業界では設計の初期段階に負荷をかけ、後工程のトラブルを排除する「フロント・ローディング」が進められています。同様

に土木建設業界においても、設計の上流段階で3D設計データと周辺属性データの組み合わせによる検証を行うことで、早期に設計品質を高めることが可能になります。例えば、施工前に実際の施工現場を仮想的に再現することで、クレーンのブームが足場や高圧線、およびその放電範囲と接触する「干渉」を事前にチェック。さらに、旋回による後部カウンタウエイトと周辺設備などとの干渉を確認することも可能となり、無用の事故を未然に防ぐことができます。



建設ITジャーナリスト/
株式会社建設ITワールド 代表取締役

家入 龍太氏

BIM/CIM情報化施工などの導入で、生産性向上、地球環境保全、国際化等、建設業界の経営課題解決への情報を「一歩先の視点」で発信し続けている。

● 急速に普及が進むICT施工と海外の先進事例

すでに日本においても、デジタルデータの活用による施工のICT化が、随所で進められています。例えば、ドローンやスペーススキャナの点群データの活用によって、正確な測量をスピーディに実現。さらに、GPSの位置情報と3D設計データによる丁張りレスの施工は、コスト削減と同時に、重機まわりの作業者を不要にすることで、安全性を格段に向上させています。またクレーンの作業進捗とシンクロナしながら資材トラックの配車を指示し、「作業待ち」のロスを排除することで、工期圧縮と働き方改革を同時に解決した事例もあります。さらに、ドローン測量によって、正確な排土量の測定～

見積～請求書作成までを一気通貫で実行するなどの施策も進められており、施工現場はもちろん、オペレータの帰社後の事務処理や、バックオフィスの業務軽減にも貢献しているのです。また、小型クローラクレーンにコンクリート噴出ノズルを装着し、従来の型枠工程をカットして、3D設計データにもとづいてダイレクトに基礎を構築するなどの動きも拡大しています。まさにクレーンが巨大な3Dプリンターになるのです。大工仕事に依存していた型枠構築の人員や期間、コストを大幅に削減。さらに型枠に要する木材も不要になるので、SDGs (Sustainable Development Goals) が求められる時

代背景にもジャストフィットしたものとして注目を集めています。

少子高齢化による、生産年齢人口減少が進む日本では、今後益々外国人労働者への依存度が高まっていかざるを得ません。そもそも多民族国家で、外国からの流入人口も多いシンガポールでは、3D-CADのアニメーション機能やVRの活用などによる視覚化が、大きなパワーを発揮しています。タブレットやスマートフォン、ゴーグル上で、作業手順や先ほど述べた干渉などの注意点が一目瞭然。言語の壁を越えて、より深い相互理解を図ることができ、生産性や安全性の向上を実現しています。

● 次代を見据えた情報化施工への視座確立を

経験や勘に依存していた匠の技の継承性をサポートするものとして、ジャイロを活用してクレーンの荷の安定性や方向制御を図ったり、玉掛けをサポートする後付け装置も開発されていますので、その辺りから導入を図るといった手もありそうです。

建設機械の遠隔操作も加速度的な

進化のなかで、もはや夢物語ではなくなりつつあります。作業者のロケーションを選ばず、居ながらにしてさまざまな現場の作業が実現するので、移動に関わる時間や労力などの働き方改革、さらに燃料の削減にもつながり、脱炭素化への時代要請にも貢献します。また、施工現場の裏側などを含め

た複数の周辺カメラの画像を確認しながら、より安全確実な作業が実現するでしょう。

いずれにしても、業界を巡る諸課題は焦眉の課題であり、それらの解決を図るICTソリューションも日進月歩。今から来るべき次代を見据えた視点で、準備を進めていきたいものです。

建機メーカーならではの強みを実装 『K-D2 PLANNER®』に込めた想い

マウスクリックなどの簡単な操作だけで、クレーン施工計画に必要な情報を一貫して提供する、建機メーカーならではの機能を備えた、シミュレーションソフト『K-D2 PLANNER®』。
その誕生に至る背景や経緯について、事業化への道を拓いた新事業推進部 新事業プロジェクトグループの3名がそれぞれの立場から語り合った。

建設における物理空間×サイバー空間の「デジタルツイン」を目指す

——『K-D2 PLANNER®』誕生の背景を教えてください。

岡田：私たち新事業推進部は、新しい製品やサービスを提供するために事業の企画から戦略立案・立ち上げ、また販売からサポートまで事業として成立させるまでを担っています。新規事業の立案に当たっては、社会課題を発見

し、その解決策をビジネスに結実させるというスタンスを大切にしています。

小山：そのなかで私たちはクレーン施工計画における現場の安全性や効率性、また人手不足や労働効率向上、技術の継承性などの「建設業が抱える課題」に着目し、最適なクレーン計画の実現を価値として提供するために『K-D2 PLANNER®』の事業化を目指した、ということです。

高松：ここで特筆すべきは、独自ツールを開発するのではなく、すでに建築設計において広く活用されている3D-CAD“Autodesk® Revit®”の追加プログラムであるアドインとして開発した点です。スクラッチで開発するのと異なり、アドインとしてのさまざまな制約がありましたが、お客様の導入しやすさや裾野の広がりという意味でも、大正解だったと思います。

岡田：国交省のBIM推進施策に併せて、日本建設業連合会もクレーン3Dモデルの標準化を進めており、建設施工の3Dデータ活用が加速化しています。



ソフトウェア開発担当 高松 伸広

当社は建機メーカーとして、この重機モデルに加えて重機的能力や特性などデジタルデータをもつ強みを活かし、計画した通りに施工が進む世界、「デジタルツイン」を目指しました。

お客様との共創体制を堅持

——デジタルツインとしての『K-D2 PLANNER®』の魅力をさらに詳しく教えてください。

岡田：本特集冒頭で家入先生もご指摘のように、土木建設現場では想定外のできごとが生じがちです。そこで、現場の空間状況や吊荷の形状、これに合わせたクレーンの姿勢・負荷率・接地圧など重機の状況をあらかじめ仮想空間上で再現。さまざまな条件下で発生する問題点の芽を事前に摘み、安全かつコスト、工期などあらゆる面で生産効率性に優れた施工計画の最適解を見出しおこよう、ということです。また、これまで把握が難しかったブームのたわみなども吊荷重に応じて可視化表示。仮設部材との干渉チェックなど



コベルコ建機のクレーンであれば、吊荷重に応じたクレーンの「たわみ」を表示可能。経験頼りだった仮設部材との干渉チェックも、たわみを考慮して確認でき、より安全な現場を支援。

も、より正確にシミュレートできます。

高松：さらに習熟度を問わず「誰でも簡単に」直観操作できるようユーザーインターフェースに目を配り、実際に行われる施工検討会などのプレゼンテーションを想定し、施工ステップのイメージを4Dで共有できる機能も備えました。

小山：そもそも建機メーカーなので「シミュレーションソフトの開発・評価」の経験はなく、開発の早期から実際のお客様へレビューを行い、評価をお願いしました。α版ともいえる最初のフェーズでは約20社にご評価いただき、そこで改善したβ版ではより多くのお客様にモニタ活用とアンケートをお願いしました。

高松：そのおかげで、非常に完成度の高いソリューションに磨き上げることができたと自負しております。

ソフトウェアビジネスの難しさを実感

——ソフトウェア専門メーカーではないことで、ビジネス面ではどんな苦労がありますか？

小山：『K-D2 PLANNER®』の魅力をどうお伝えするか、が課題です。ソフトウェアのマーケティング経験がなかったため、まず認知度アップがポイントだと考え、ウェビナー（Web上のセミナー）や展示会をはじめ、Web広告や新聞、雑誌など、さまざまな媒体や機会の活用を進めています。

岡田：また、今後の拡販に向けて、販売チャネルの拡大や連携も進めています。

高松：現在は、導入サポートやご質問などにお応えするヘルプデスクも、私たち自身が行っています。しかし、裾

野の拡大のなかで、いずれはサポートも含めて代理店様をお願いしていく体制を築いていく必要がありますね。

さらに成長性あるシステムとして

——今後『K-D2 PLANNER®』を、どのように育てていきたいですか？

高松：今、世界の建設施工ではデジタルツインの取り組みが進化しています。今後、さらにお客様との共創体制を基盤に、施工計画に加えて、現場のリアルタイムな施工実績の見える化と施工最適化を進めていきたいですね。

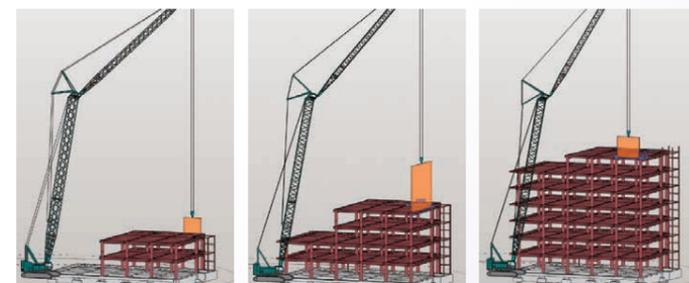
小山：さらにお客様の声を反映させない



マーケティング担当 小山 夏美

がらバージョンアップし、機能追加や改良を進めていきたいと思っています。一方、導入後の社内運用に不安があるお客様などにも、『K-D2 PLANNER®』の魅力をご理解いただくために、先行的な導入事例などを積極的に紹介していきたいと思っています。

岡田：お客様側で一部加工作業は必要となりますが、他社機の取り込みも可能な仕様となっています。今後、さらに幅広い重機に対応できるよう開発を進めてまいります。コベルコ建機の経営理念である「ユーザー現場主義」にもとづき、ユーザビリティを追求し、課題解決のためのソリューションとして幅広く展開していきたいと考えています。



施工計画のステップごとに検討内容を登録することで、いつでも検討結果を再現できる。タイムライン表示で施工ステップのイメージを4Dで共有できるため、プレゼンテーションでも活用可能。

K-D2 PLANNER®詳細はコチラ！



正確なデジタルモデルを基盤に ワークフローにもとづいた施工計画を実現

『K-D2 PLANNER®』の開発は初期段階より、さまざまな企業からご意見をいただきつつ進められた。今回は、そのなかの西松建設株式会社様にご協力いただき、同社の建築事業本部 BIM推進室の岩崎昭治課長を訪ね、『K-D2 PLANNER®』への関わり方や施工計画への活用、今後の期待などについて話を伺った。

共創の思想で レスポンス優先を提案

岩崎氏は約20年前から3Dモデルに立脚した施工計画を構想し、BIMへの取り組みを意識して、施工計画アドインの自社開発などの取り組みを進めてきた。そのなかで、製品メーカーではないゆえに正確な情報が入手できないジレンマをこう語る。
 「正しい情報にもとづいて、しかもAutodesk® Revit®上でそのまま動作するツールが欲しい、と考えていたのです。そんな折、Autodesk® Revit®のアドインとして開発される『K-D2 PLANNER®』の話聞き、事業化に先立ち評価版モニター企業の一社として協力してもらえないか、との相談があったのです。まさにグッドタイミングで“こういうツールが欲しかった”、さらに言えば“なければ困る”という気

もちで、私たちゼネコンとしての想いを伝えていきたいと考えました」
 『K-D2 PLANNER®』の開発チームも同席したコベルコ建機とのミーティングで、同氏が第一に掲げた要件は、「レスポンスの速さ」だった。
 「最初は、なによりもスピードが大切だ、と訴えました。動作が遅く少しでもストレスを感じたのでは、ユーザとなる計画部門は使ってくれません。ソフトウェアの開発者は、ややもすると当初からあれもこれもと機能を盛り込みがちです。しかし、その負荷がレスポンスを阻害したのでは意味がない、と伝えました」

3Dシミュレーションから生まれる 施工計画の浸透に尽力

さらに岩崎氏からは「徹底して現場における実際の業務の流れに準じた開発思想を貫いてほしい」という要望も



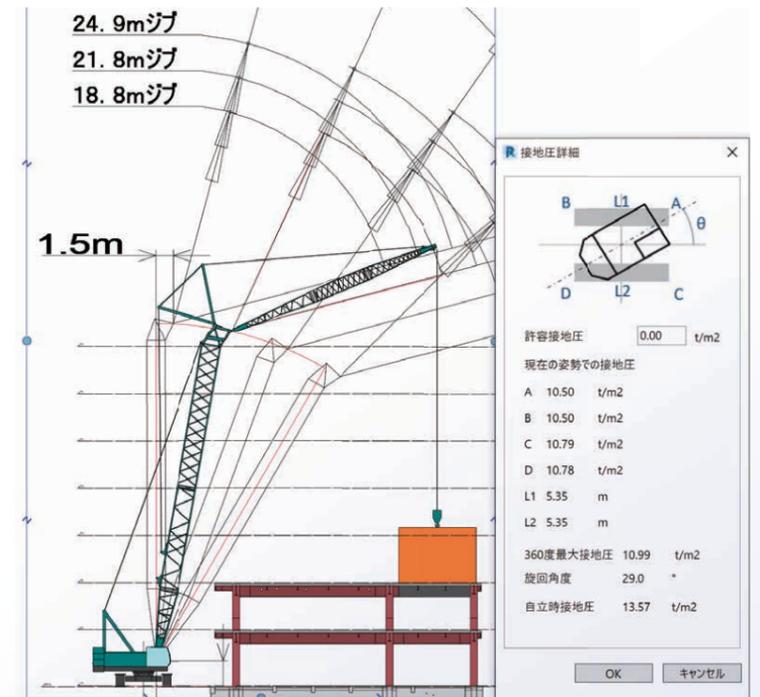
出された。
 「コベルコ建機の開発チームも、私たちのリアルなワークフローを把握し、理解しながら、実際にツールをどう使うのかについてしっかり検討してくれました。それがシミュレーションツールとしての実効力向上に少なからず貢献した、と考えています」

また岩崎氏自身が、社内の施工計画チームに対して『K-D2 PLANNER®』の特徴や活用メリットの説明・啓蒙活動を開始。検討会のなかで、3Dデータから事前にバーチャルな現場を形成する意義を説いた。現場や周辺状況、クレーンの位置や可動範囲などがすべて可視化され、誰もが一目瞭然となった環境下で、課題を抽出し、そこで生じ得る障害や問題点を摘み取り、ミスを排除するという、これからの施工計画に欠かせない考え方を浸透させていったという。

さらに豊かな気づきと ナレッジの蓄積へ

岩崎氏は、次のステップとして成果の資産化と蓄積が大切だと語る。
 「3Dデータを活用する上で、さらに新

BIM資材の重量情報と連携し、施工計画に必要な負荷率や接地圧などの情報表示が可能。カタログスペックや2D-CADによる施工計画に比べ、効率化を実現した。また、工事計画への活用可能な、ブーム側面から見た断面図もワンクリックで作成できる。



たな気づきや潜在知の顕在化、ノウハウや知見の一元化とナレッジを進め、次の計画への反映を図っていかねばなりません。実は、かつて2Dで進められてきた計画を再整理してナレッジとしてAI化を図ろうと試みたのですが、それらは次の時代を見越した視点で集積されていなかったのです。そこで、これからは明確な資産化を意識したスタンスで、ナレッジのアーカイビングを図る仕組みづくりを進めていきたいです。さらに、そこで整理・蓄積された成果を標準化し、属人性を排除しながら知見やノウハウの共有・伝承などの人材教育にも活用していきたい、と考えています」

また現場で働く外国人作業員の方に



クレーン位置と資材情報を施工ステップごとに登録することで、その現場で使用可能なクレーンが確認できる。最小クラスのクレーンを選定すれば、コスト最適化につながる。

対しても、分かりやすく3D表示された画面の共有によって、言語や重機習熟度の違いを超えて、工程や作業の意味や手順の正確な理解が一層加速されていくものと、期待を膨らませている。

さらなる バージョンアップに期待

実際の現場では、メーカーが混在するクレーンの活用環境が一般的だ。そこで同氏は、今後の他社製品も含めたモデル拡大に期待している、と語る。
 「また施工中だけでなく、クレーンの組立や解体など、工事前後を貫く現場のライフサイクル全体を一気通貫でカバーする機能追加を計画中だと伺

っています。これは、ぜひとも早期に実現していただきたいと願っています。企業においてデータは価値そのものです。これを自社ビジネスに実装し、生産性や安全性向上はもちろん、採用や教育、働き方改革の推進など人材戦略に至る諸課題解決に活用する必要があります。私たちはそんな視座を確立していきたいと、決意を新たにしています。また大学でも、こうしたデータサイエンス教育を強化し、新時代の戦力となる学生を輩出していただきたいですね」

今後も、3Dデジタルデータの活用を進め、そのなかから新たな洞察や気づき、価値を見出し、企業資産として蓄積する姿勢を強化していきたいとする西松建設。そのデータサイエンス的な戦略は、次代に向かってさらに大きく飛翔しようとしている。



西松建設株式会社
 東京都港区虎ノ門一丁目17番1号
 虎ノ門ヒルズビジネスタワー
<https://www.nishimatsu.co.jp/>

近江商人発祥の町並みと八幡堀〔滋賀県〕

近江商人を生んだ水の路

滋賀県中部、琵琶湖東岸の近江八幡市。かつての城下町には、碁盤目状に整備された街並みと、町の発展に欠かせなかった「八幡堀」が残る。琵琶湖舟運の拠点として町の発展を支えたこの水路は、やがてこの地から日本各地へと旅立っていく近江商人躍動の原動力となっていく。

砂山幹博 = 取材・文 田中勝明 = 撮影
text by Mikihiko Sunayama / photographs by Katsuaki Tanaka

安土の城下町を引き継ぐ

標高271.9mの八幡山の山頂に築かれた八幡山城の城下町として誕生した近江八幡は、東に約5km離れた場所にあった安土城の影響を大きく受けている。1579年に織田信長の命で築かれた安土城は、史上初めて高層建築の天守（安土城では「天主」と表記）をもった城として知られるが、城と町とを一体化させた城下町を初めて設けた城でもあった。課税免除と自由交易を許した有名な楽市楽座の経済政策が行われた安土の城下町には、魅力を感じた商人が集まり大いに賑わった。しかし、城の完成からわずか3年後、本能寺の変で織田信長が討たれると城の中核部は炎上、灰燼に帰した。

壊滅的な安土の城下町の機能をそのまま受け継ぐこととなったのが八幡山城の城下町（以下、八幡）だった。安土城焼失から3年後の1585年に太閤豊臣秀吉の甥で後に関白となる豊臣秀次が八幡山の頂に築城すると、山麓にあった日牟禮八幡宮の周囲に縦12筋、横5

筋の城下町がつけられた。

琵琶湖湖岸の内陸側に生じた内湖と呼ばれる湖沼に面し、港の機能をもった安土の城下町をそのまま活用して安土に城を再建するほうが効率がよさそうだが、織田から豊臣に権力が移ったことを示すためには、安土を廃して別の場所に城を新たに築く必要があった。こうして選ばれた別の場所が八幡だった。

町の発展に欠かせなかったのが八幡堀だ。城を守るために八幡山を囲むように築かれた全長4.75kmの堀で、東は琵琶湖最大の内湖「西の湖」、西は直接琵琶湖につながり、物資を運ぶ運河の役割も果たした。

織田信長は江戸から中山道を通る商人に対し、必ず脇街道の京街道から安土に立ち寄るように規制をかけたが、秀次もこれに倣った。京街道のルートを変えて町に立ち寄らせ、それに加えて琵琶湖を往来する荷船も必ず寄港させることにした。こうして強制的に人、物、情報を集め、安土同様に楽市楽座を実施して城下を

大いに活気づけた。

商人の活躍を支えた八幡堀

秀次の八幡山城在城期間はわずか5年。その後、清須城主を経て、関白に就いた秀次は京都に入り、秀吉の後継者として政務を執るも、若くして悲運の最期を遂げた。これを機に、築城から10年後の1595年に八幡山城は破却されるが、八幡の城下町は秀次が去った後も琵琶湖水運の重要な拠点であり続けた。日本海側から陸路で入ってきた物資は、琵琶湖で船に載せ替えられ、八幡など湖岸の港を経由して、琵琶湖最南端の大津からは再び陸路で京都方面へ送られたほか、淀川で船に積み替えられて大阪へと運ばれた。

長らく物資を運ぶ中継地点として機能してきた八幡だったが、17世紀前半になると、定住した商人たちが自分たちの商品の積出港としての性格も併せ持つようになった。主に畳表や蚊帳といった近江の地場産業を育成し、生産した商品を携えて八幡から江戸をはじめ全国各地へと出向いて流通させ

■ 八幡広域図



八幡堀の南側には、南北に12筋、東西に5筋の城下町がつけられた。旧城下町のうち新町通りと永原町通り、八幡堀周辺および日牟禮八幡宮境内地は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている

■ 赤柵拡大地図



八幡伝統的建造物群保存地区（●の範囲）

水運の動脈として活用され、近江八幡の繁栄を支えた八幡堀。昔ながらの屋形船からも、石垣や白壁の蔵が並ぶ景色を楽しめる

堀の際まで下りて、石畳の通路を歩くことができる



1.八幡堀には土蔵や荷降ろしに使った石段が残る 2.琵琶湖の原風景を満喫できる「水郷めぐり」。八幡堀めぐりとは趣が異なり、迷路のような葦原の水路を進む



1.最盛期には土蔵群があったという八幡堀。今もその名残をそこかしこに見ることができる 2.堀際に外から見えるように植えられた「見越しの松」が通りに風情を添える（新町通り） 3.町の名の由来にもなっている日牟禮八幡宮。八幡山の麓に鎮座し、八幡商人の尊崇を集めてきた

File.64

歴史的 建造物誕生の 秘密を探る！

1.豊臣秀次の居城・八幡山城があった八幡山 2.八幡山からは西の湖や安土城があった安土山を見渡せる



た。特に取引規模が大きく、後に北海道開拓にも力を発揮することになる商人は八幡商人と呼ばれた。江戸中期に滋賀県蒲生郡日野で漆器や売薬などの地場産業が盛んになると、これらを行商する日野商人が生まれ、さらに100年ほど後に彦根藩の規制緩和で農民の行商が可能になると、領内から湖東商人と呼ばれる商人が現れた。こうした近江国内に本家を構え、他国で行商や出店を設けて商いをした商人の多くが出店先で「近江屋」の屋号を名乗ったことから、近江商人と総称された。

近江商人の中でも八幡商人がいち早く世に出て行けたのも、琵琶湖と結ばれた八幡堀という運送インフラがいち

はやく確立されていたためだ。近江商人の発祥と発展に大きな役割を果たした八幡堀には白壁の土蔵が立ち並び、八幡は江戸時代を通して近江国では大津と並ぶ賑わいを見せた。

埋め立てを回避した市民運動

昭和初期まで町の流通や経済を支えてきた八幡堀も、人々の生活形態が変わりだした昭和30年代になると、次第に忘れ去られた存在となった。堀にはごみが捨てられ、ホテイアオイが水面を覆い尽くし、ヘドロは堆積するばかりで、水が異臭を放つようになった。昭和40年代になると、八幡堀が再び水運で役立つことはもうないだろう

と、地元自治会は不用の堀を埋め立てて駐車場や公園などに改修するよう近江八幡市に陳情した。このとき近江八幡青年会議所は反対の行動を取った。1972年に「堀は埋めた瞬間から後悔が始まる」を合い言葉に、八幡堀が埋め立てられるのを惜しみ、市民に浚渫と復元を呼びかけた。

毎週日曜日になると青年会議所の会員自ら八幡堀に入り、自主清掃を始めた。汚れは想像以上にひどく、清掃すべき範囲も広大なためなかなか作業はかどらなかった。ときには清掃活動中にヤジを飛ばされることもあったが、次第に共感する市民が現れ、大規模な清掃活動へと発展した。3年後の

1975年には、ついに滋賀県が進みかけていた改修工事の中止を決め、さらに八幡堀の保存運動に端を発した市民運動は町並み保存や景観保存へと展開していくこととなる。

1991年には、旧城下町や日牟禮八幡宮周辺の八幡堀などの地域が「近江八幡市八幡」の名で滋賀県下では初めてとなる重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建）に選定された。また2006年には、八幡堀を通じて水路でつながっている西の湖や周辺の景観が「近江八幡の水郷」として重要文化的景観の第1号に選定されている。近江商人が扱った商品には、屋根の材料やすだれ、衝立などに加工されたこの

境界で採取される葦を原料とするものが多く含まれていた。葦原などの自然環境が、葦産業などを生業とする地域住民の生活と深く結びついて発展した文化的景観である点が評価されたものだ。城下町と水郷は場所が異なり直接的な関わりはないが、景観保存の考え方や意識で共通点が多い。

もし、当初の計画の通り八幡堀が埋め立てられていたとしたら、古い町並みを残そうとする機運は生まれず、重伝建の話もなかったに違いない。

重伝建地区の八幡堀をはじめ新町通りや永原町通りの町並みは、いまでは近江八幡観光のシンボル。秀次が築いた当時とほとんど変わらない姿で私

ちの目の前にあるのは、その価値を見誤らなかつた先人たちの選択のたまもの。

商売において売り手と買い手が満足するのは当然で、社会に貢献できてこそよい商売だとする「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の考え方を大切にしてきた近江商人の姿とどこか重なって見えるのは気のせいだろうか。

コベルコ建機公式Instagramでは、「歴史的建造物誕生の秘密を探る!」の再編集記事をはじめ、さまざまな情報をお届けしています。ぜひ、フォローしてご覧ください。



【公式】コベルコ建機
kobelcokenki_official





経営のヒント

先行者利益編

宮崎県宮崎市
株式会社キング

建設機械とともに安全という 付加価値もレンタルする

今年で創業50年を迎える株式会社キングは、宮崎県宮崎市を拠点とし、主に油圧ショベルなどのレンタル事業を手がける企業だ。2023年、同社では最新の衝突軽減装置OmniEye®(オムニアイ)を導入。顧客の現場におけるリスク対策に効果を発揮する強力なアイテムを手に入れ、レンタル機器の安全性向上に大きな役割を果たそうとしている。

山田高弘 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura

安全という付加価値を レンタル業ではいち早く追求

株式会社キングは、宮崎県全域と九州各所に事業所を構え、各種レンタル、運輸、整備・修理、建機販売、道路切削・環境工事など、幅広い事業を展開。コア事業のレンタル業では、油圧ショベルや林業用機械、さらにAEDやパイプ椅子まで多種多様な商品を揃えている。

「当社のモットーは、お客様の望むサービスをワンストップで提供することです」と話すのは、代表取締役社長の定満利博さん。そのために重要視してきたのが、市場のニーズをいち早くつかみ、準備を怠らないことだ。

例えば、約650台のラインナップを

誇る建設機械のレンタル業では、近年“人と機械の接触事故防止機能”に対する現場のニーズが急激に高まっているが、同社では以前より衝突を未然に防ぐためのシステムに着目。安全という付加価値を備えた道路機械や油圧ショベルを導入し、予想されるニーズに備えて準備を進めてきた。

「昨今、自動車では人との衝突事故を防止するための安全システムが義務化され、標準装備になってきています。建設機械でも近い将来、同様の制度が施行されるのは確実で、今後はレンタル用の機械にもそうしたシステムが求められるようになるはずですよ」(定満さん)
建設機械における安全性向上につながるシステムの導入に対し、積極的な姿勢を見せてきたキングだが、一方で

以前からあるセンサー式の音で知らせるタイプについてはいささか懐疑的だったという。

「人以外にも反応して仕事が無駄にストップするため、現場ではスイッチを切って使われるケースもあると聞いていました。また、ヘルメットに装着したタグや安全ベストに反応するという装置も、それらを身に着けていないと作動しないため、人通りの多い街中で



1.機械に近づく人を単眼カメラ（半球カメラ）で検知し、AIが人かモノかを判別する 2.衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、光と音でオペレーターに知らせる警告ランプ 3.ドライブレコーダー機能を備えたコントロールボックス

“「事故抑制」につながるOmniEye®のような商品を広めていくのは、当社の使命だと考えています”

代表取締役社長
定満利博さん



●今回の訪問先は
株式会社キング
所在地/宮崎県宮崎市本郷南方223-1
☎0985-56-5352 (代)

の工事では現場の安全性という点で少々疑問をもっていました」(定満さん)

機械の安全性に革新をもたらす 「OmniEye®」を導入

さまざまなタイプの安全システムを取り扱いながらも、「これだ」というものに出合えていなかったと話すと定満さん。そんな時、同社の顧客である株式会社ガイアートより、「万が一のときに機械が止まる安全装置の付いたミニショベルを導入したい」という商談がもち込まれた。

「同じ時期にコベルコ建機から、ミニショベル向け衝突軽減装置OmniEye®の紹介を受けたのです。このシステムにはAIが搭載されていて、機械の周囲で半径1.6m以内に人を検知すると機械自体をストップさせるという優れたもの。まさにお客様の要望通りの安全システムでした。しかも、人以外のモノ

は検知しないとのことで、私が長年求めていたものに限りなく近い安全システムだと確信しました」(定満さん)

金額面についても、これまでのものと比べて安価だったことが導入の後押しとなり、購入を即決した。

現在OmniEye®を搭載したミニショベルは、ガイアートの手がける宮崎県西都土木事務所の発注による東臼杵郡椎葉村の国道388号線矢立工区の道路拡幅・舗装工事です。すでに稼働を開始。ガイアートのオペレータ、稲田英二さんは導入のメリットをこう話す。

「排土板で土砂を押し戻したあと、本体をバックさせる際に人との接触事故が起こりやすい。その点、この装置なら機械の後ろに人が立つと自動で止まるので、安心感があります。人以外のものには反応しないため、仕事をたびたび止めずに済むのもありがたいですね」

アドオン装着で各種ミニショベルに



写真左から、ガイアートで現場代理人を務める小野さん、キングの齋藤孝輔さん、ガイアートのオペレータである稲田英二さん。「ほかの現場でもOmniEye®搭載機を導入済みです」と小野さん。齋藤さんは「これからも力を入れていく商品です」と話す

も取り付け可能なOmniEye®は、レンタル会社にとってもメリットのあるシステムだ。オーダーの絶対数はまだ少ないが、すでに水道や電気、ガスといったインフラ工事の設備業者などから問い合わせがきている、と定満さん。他社に先駆けてレンタル業界におけるOmniEye®導入の先鞭をつけるべく、コベルコ建機との二人三脚で「今後も啓蒙活動を続けていく」と力強く語ってくれた。

OmniEye®を搭載したミニショベルSK45SR。宮崎県を通る国道の拡幅工事に従事していた



1.キャブ内の液晶モニターには、単眼カメラの映像を鳥瞰で表示。機械の周囲を確認できる 2.ガイアートのオペレータ、稲田英二さん。「道路工事ではバケットが届かない場所の作業があり、人の手が必要不可欠。多くの人が狭い場所で働いているような現場には、OmniEye®の安全機能が最適だと思います」



経営のヒント

設備投資編

三重県四日市市
株式会社種瀬組

ひとクラス上の設備投資で 事業の継続的な発展を促進

1956年の創業以来、海上での杭基礎建設を主事業としてきた株式会社種瀬組。海上での仕事は専門的な技術が必要なことから、同社の設備に対するこだわりは非常に強い。高い能力をもつ機械を自社専用にカスタムして導入し、常に現場の安全性や作業効率の向上に取り組んでいる。

山田高弘 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura

安全、効率、負担軽減という 3つの条件を、設備投資で実現

現在、株式会社種瀬組が手がける基礎土木事業の比率は、陸上が2割、海上が8割となっている。海上での杭打ち工事が同社の主事業になったきっかけは、創業間もない1959年に発生した伊勢湾台風だ。その復興事業に従事した際、海上での基礎工事を請け負ったことで、種瀬組はその後、海上杭打ちのスペシャリストとしての道を歩むことになる。

「手がける業者が少ないということもあり、海上での仕事が年々増えていったと聞いています」と話すのは、91年に代表取締役役に就任した種瀬正康さん。全国より依頼されるさまざまな工事に対応すべく、当時から今に至るまで杭打船などの設備投資を積極的に行ってきたという。

なかでも、種瀬組にとって重要な転機となった設備投資が、96年に完成した第十八御在所号（杭打船兼起重機

船）だ。550tという海上では国内最大級のつり能力を誇り、海洋開発や港湾整備といった数々の大型プロジェクトを受注。羽田空港のD滑走路や名古屋港の棧橋、東京ゲートブリッジ、東京オリンピックの会場となった海の森水上競技場など、その稼働現場は枚挙にいとまがない。

第十八御在所号をはじめ、こうした種瀬組の設備投資には大きく3つの目的がある。基礎工事の大型化に伴い、



現場のとりまとめやクライアントとの打ち合わせなどを担う専務の種瀬悠さん。「SL6000J-2は既存機7350Sに比べ、現場にも杭を打ち込めるので、競争力の強化につながります」

ハーフセップ台船に搭載されたSL6000J-2が、パイプロハンマーと鋼管矢板をつり上げ中。鋼管矢板の径と大きさから、これまで使用していた7350Sよりも余裕をもって作業ができる



“「大は小を兼ねる」をモットーに将来を見据えた設備投資を心がけています”

代表取締役
種瀬正康さん



今回の訪問先は
株式会社種瀬組
所在地 / 三重県四日市市貝家町1720番地
☎059-321-2050 (代)
<https://tanasegumi.co.jp/>

現場の安全性を確保すること。新たな工法への対応などにより作業の効率化を図ること、さらに、オペレータと手元作業員の負担軽減も同社が設備投資に注力する大きな動機の1つだ。「これらの条件を叶えるため、当社では設備を導入する際、現状で必要とするよりもひとクラス上の能力に着目し、それを選択の基準としています。能力に余裕をもった設備なら、将来に渡ってより長く使用することも可能ですから」（種瀬正康さん）

コベルコ建機のSL6000J-2を 大型化する基礎工事の切り札に

年を経るごとに大型化していく基礎工事。その傾向は、東日本大震災以降になるとさらに顕著になり、使用される杭はより長く、径の大きさも増している。

そうした現状に対応すべく、種瀬組では2023年、コベルコ建機の大型クローラークレーン、SL6000J-2を新たに導入。15年以上活躍しているコベルコ建機の7350Sと比較し、能力アップとなる機械だ。

導入初日、現場である静岡県・清水港の富士見岸壁を訪れると、同機は新造されたハーフセップ台船に搭載され、鋼管矢板の打設による耐震補強工事に従事していた。ハーフセップ台船とは、クローラークレーンを搭載して海上での杭打ち作業などを行うスパット（船上から海底へ突き立てる柱体）付きの台船のことだ。潮流や波風の影響を受けにくい安定性に優れている。

「SL6000J-2の導入に当たっては、さまざまなカスタム要件をリクエストさせてもらいました」（種瀬正康さん）

例えば、7350S同様にSL6000J-2でもウインチを既存の主巻、補巻に加えて計6個にまで増設している。本現場では、主巻ウインチで振動式杭打機であるパイプロハンマーを、補巻ウインチで鋼管矢板をついて打設。さらに、鋼管矢板のつり込み時にパイプロハンマーが邪魔にならないための引き込み用に第5ウインチを活用していた。

オペレータの坂下浩一さんは、SL6000J-2のつり能力を高く評価してくれた。「ブームの強度があって良いですね。



代表と専務を中央にして事務の皆さんと。左端は販売店・株式会社ヨネイの名古屋支店長、渡部茂さん。種瀬組からのカスタム要件をコベルコ建機に伝達し、種瀬正康さんの思い描く機械作りをサポート

これならSL6000J-2の余裕のあるつり能力を最大限活かせるのではないのでしょうか」

さらに、坂下さんは使い心地も高く評価。重量物に車体を近づけなくても作業半径に余裕をもってつれるため、安心して作業が行えるという。

「こちらのカスタムに関する要望をしっかりと聞いて応えてくれますし、オペレータからの評価も上々。今後もクローラークレーンはコベルコ建機にしたいと考えています」と種瀬正康さん。

今後ますます海に映えるブルーグリーンの機体が、全国の海上杭打ちの現場を席巻することになりそうだ。



1.パイプロハンマーに鋼管矢板をセットし、いよいよ打ち込みへ。本現場では、1週間の工期で計14本を打ち込む予定だ
2.SL6000J-2の安定感は、坂下オペレータのお墨付き。使用するほどに、作業効率の向上を実感できるという
3.SL6000J-2のオペレータ、坂下浩一さん。長く搭乗していたコベルコ建機7350Sに比べて、より広いキャブ空間の快適な居住性を評価



【コベルコの風】

日本全国、そして世界各国でのコベルコの活動をレポート!



屋内に展示された新型ミニショベルSK30SR-7 杭ナビショベル®スイングブーム対応

Wind 2 from
北海道

Hokkaido

「北海道土木・建築未来技術展」に出展しました

2023年6月14～15日に、北海道札幌市のアクセスサッポロにて、「北海道土木・建築未来技術展」が開催され、コベルコ建機日本が出展しました。

本展示会は、i-Constructionに関するさまざまな情報提供を行う場として、多種多様な建設機械や測量機器の展示・体験、有識者によるセミナーなどのコンテンツを揃えた、道内最大級の建設業界向けイベントです。今回、

ブースではK-DIVE®の遠隔操作実演や、SK135SR-7 3Dチルトマシンコントロール機での試乗体験などを実施し、お客様にコベルコ建機の最新ソリューションをご体感いただきました。

コベルコ建機日本ブースには2日間で200社以上の企業様にお越しいただき、現場課題を改善するコベルコ建機のソリューションを多くの方にPRする機会となりました。



1.K-DIVE®試乗体験では、機械の振動や傾きがコックピットに反映されるモーションシートに驚きの声も 2.屋外ブースには仮設法面を設置し、機械の操作性や現場での活用方法を紹介

Wind 1 from
千葉

Chiba



1.センターステージのプレゼンには多くのお客様にお越しいただきました 2.屋外ブースでは衝突軽減システム搭載機のデモを実施

「第5回 建設・測量生産性向上展 (CSPI-EXPO)」に出展

2023年5月24～26日の3日間、千葉県の幕張メッセで開催された国内最大級の建設・測量業界の展示会「第5回 建設・測量生産性向上展 (CSPI-EXPO)」にコベルコ建機が出展しました。

5回目を迎えた本展示会では、小規模土工に対応するICT建機のソリューションを中心に、現場の課題解決に貢献する多くの最新技術を紹介。新型ミニショベルのSK30SR-7、SK35SR-7に対応する杭ナビショベル®、衝突軽減システムOmniEye®や、チルトローテータ マシンヒッチ+各種アタッチメントなどの実機をはじめ、クレーン施工計画を最適化するソ

フト「K-D2PLANNER®」や遠隔操作システム「K-DIVE®」などの展示を行いました。ステージでのプレゼンテーションでは、ブースの外にまでお客様があふれるほどの盛況ぶり、ICT施工に関するセミナーにも多くの方にご参加いただきました。

新型コロナによるさまざまな制限が緩和され、コロナ禍前の活気を取り戻した今回の展示会では、コベルコ建機ブースおよび展示会全体としても過去最高の入場者数を記録。コベルコ建機が掲げる「誰でも働ける現場へ KOBELCO DXソリューション」のコンセプトを多くのお客様へお伝えできた3日間でした。

Wind 3 from
千葉・愛媛

Chiba・Ehime

秋の展示会開催のお知らせ

毎年秋の恒例行事となっている「コベルコ建機日本 秋の大展示会2023～碧き未来への挑戦～」 「トーヨスギウエ70周年記念大展示会」の2つの展示会を開催します。

重機ショベルからミニショベル、最新のICT建機まで、豊富なラインナップでご来場のお客様にコベルコ建機が誇る製品やソリューションをご体感いただけるよう、展示準備を進めています。それぞれの展示会で、趣向を凝らしたブースも企画中です、ぜひ展

示会にご来場いただき、コベルコ建機の製品やソリューションを見て、触れて、お客様が抱える現場課題の解決にお役立てください!

〈コベルコ建機日本 秋の大展示会2023〉
日時:2023年10月28日(土)29日(日)
開催場所:コベルコ建機日本株式会社 市川本社
千葉県市川市二俣新町17番地

〈トーヨスギウエ70周年記念大展示会〉
日時:2023年11月10日(金)11日(土)
開催場所:ウェルピア伊予
愛媛県伊予市下三谷1761-1

【ご来場について】ご来場は事前登録をされたお客様のみとなります。詳しくは最寄りの営業所までお問い合わせください。



1.「コベルコ建機日本 秋の大展示会」昨年開催の様子 2.「トーヨスギウエ大展示会2022」開催の様子

Wind 4 from
東京

Tokyo

株式会社ジザイエとの業務提携を締結

「いつでも・どこでも・だれでも世界中のあらゆる情報にダイブし、輝くことができる世界の実現」を目指してリアルタイムに遠隔就労を実現するプラットフォーム「JIZAIPAD」の開発を手がける株式会社ジザイエ (以下ジザイエ) と、遠隔技術分野における業務提携を結びました。

ジザイエが開発を進める「JIZAIPAD」は、東京大学先端科学技術研究センターの稲見昌彦教授のもとで研究開

発が進められている「自在化身体技術 (人やロボット、人工知能などが「人機一体」となり、自己主体感を保持したまま自在に行動することを支援する技術)」がベースとなっています。

このジザイエに、遠隔操作システム「K-DIVE®」をはじめとする、コベルコ建機の遠隔技術分野に関する技術やノウハウを提供し、ジザイエの取り組み分野で発展させて活用することで、豊かな社会の建設を目指していきます。



ジザイエ代表取締役 中川純希氏(中央)ほか、関係者による集合写真

Wind 5 from
コベルコ建機

KOBELCO

人気グッズの乗用ショベルがリニューアル!

20年以上にわたって販売を続けてきました子ども向け人気グッズの乗用ショベルが、このたびリニューアルしました。モデルはSK200の重機ショベルで、レバーとハンドル操作によ

ってブーム、アームの動きを再現。キャabinは左右約30度まで旋回可能です。付属のヘルメットをかぶれば、気分は重機オペレータそのもの。ショベル好きなお子様にピッタリです!



キャabinがまわります (左右約30度) レバーとハンドルでショベルアクション!

読者の広場

Fun! Fan! コベルコニュース

“次はどこかな?”と 毎号楽しみ!

神戸製鋼所時代に、2回ほど下関への単身赴任経験があるため「門司駅と門司港レトロ」の記事を懐かしく拝見しました。当時より整備され、観光の目玉スポットになっている様子がかげえました。歴史的建造物の記事は毎号楽しみにしています。

兵庫県・
TC神鋼不動産サービス(株)
小谷恵さん

コベルコニュースへのご意見や、身のまわりで起こったあんなこと、こんなこと。さらに自慢のイラストやすてきな写真など、読者の皆様からのご投稿をご紹介します!

「歴史的建造物誕生の秘密を探る!」が楽しみ

コロナ禍で旅行がさらに遠のいてしまったので、いつか行ってみたいと思いながら拝見しています。

京都府 匿名希望

意外な所で活躍する建機を見てみたい

先入観で、建機の使い方を限定してしまいがちなので、違った視点での提案を見てみたい。そんな特集があれば面白いと思います。

兵庫県・(株)創和グリーン
中谷剛さん

異業種対談にはびっくり!

異業種とのコラボレーションは新しい価値創造につながるため、今回のコベルコ建機と象印マホービンとの対談企画は、とても興味深く拝見しました。

東京都・(株)OJK
清水さおりさん

重機に触れられる仕組みをつくってほしい!

誰でも簡単に重機に触れられて、身近な場所で、資格取得などを目的としたオペレータの講習会を開催してもらえそうな仕組みがあれば良いと思います。女性でも、畑違いの仕事をしていても、重機を操作したいと私は常に思っています。

長野県 匿名希望



栃木県 匿名希望

他社情報から学んでいます

業種が異なる会社の考え方や経営方針は、大変勉強になります。特に若い方々のチャレンジ精神は、すごいと思います。

青森県・(有)まこと建設
三上志乃さん

門司港の特集が面白かった!

門司港の特集では、古い街並み、港、建物など改めて日本の技術力を知る機会になりました。デザイン的にも、当時の人たちの感覚やセンスには脱帽です。

福岡県 匿名希望

仕事への活力です

私は普段事務方として働いていますが、コベルコニュースを読むと、現場の人々の想いや、製品にかけられた熱い気もちを知ることができ、緑の下の力もちとなれるよう頑張ろう!と仕事への活力が湧いてきます。

東京都 匿名希望

子どもが常に第一発見者

家族で外出の際、街中でコベルコ建機の機械を一番に見つけるのは長男。「パパのショベルカーおったねえ!」と教えてくれるようになり、うれしいです。

広島県 匿名希望



新潟県 匿名希望

クロスワードパズルで生まれた一体感

クロスワードは1人では難しく、事務所内で皆と一緒に楽しく挑戦させていただきました。普段から仲は良いですが、さらに一体感が生まれた気がします。

岡山県・三共リース(株)
塚越美加さん



長崎県・(株)三栄プラント建設工業
竹岡莉加さん

楽しいイラスト、すてきな写真大募集!

読者の広場は皆様からの投稿で構成しています。本誌への感想や、身近で起こったできごとなど、お気軽にお寄せください。また、同時にイラストやお写真も募集しています。採用された方には、すてきなプレゼントを進呈いたします。ぜひご投稿ください。メールでのご投稿もお待ちしております。

※メールには、会社名、所在地、電話番号、氏名、匿名希望の方はその旨を必ずご記入ください
※ご投稿いただいた内容は、本誌以外のHP、X(旧Twitter)などで掲載させていただく場合があります。予めご了承ください
✉ Kobelconews-shm@kobelconet.com

特設サイト「KOBELCO KENKI TOWN」

ケンキとひとが仲良く暮らす街を描いた「KOBELCO KENKI TOWN」では、2020年8月からWeb動画広告も配信しています。みんなの暮らしを陰ながら支えるケンキたちが活躍する世界を、ぜひのぞいてみてください!



PRESENT

[プレゼント]

クロスワードパズル正解者の中から抽選で次の賞品を進呈いたします。ふるってご応募ください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます



A賞

G-SHOCK ver.3

コベルコ建機とコラボレーションしたG-SHOCKのver.3。黒ベースの本体にG-SHOCKの文字をブルーグリーンにするなど、激レア感満載。ケースも秀逸です

3名様



B賞

キャプテンスタッグ
アルミキャンピングケトル 700ml

軽量で熱伝導に優れたアルミ製。表面には、耐食性の高い硬質アルマイト(陽極処理)済み。季節を問わず、さまざまなアウトドアシーンで活躍してくれそうなアイテムです

7名様



C賞

布引焼 香箱座り猫のカップ&ソーサー

東近江に広がる布引山系は陶器産地として栄えていましたが、1千年以上途絶えていました。1970年代になって現代風に再現された、布引焼のユニークなカップ&ソーサーです

CROSSWORD PUZZLE

[クロスワードパズル]

タテ・ヨコのカギをヒントにマス目を埋めてください。

二重マス目の文字を並べ替えてできた言葉を

専用はがきの解答欄(または、はがき)にご記入ください。

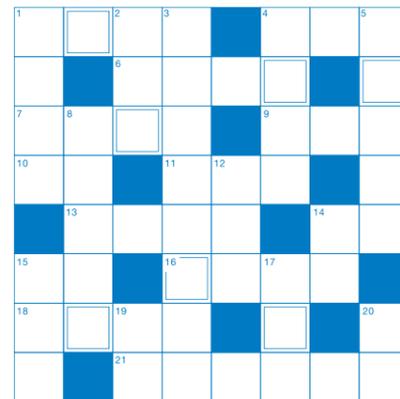
- ご応募の締め切り: 2023年9月29日(消印有効)
- あて先: 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 大崎ブライトコア5F
コベルコ建機(株)コベルコニュース編集室

Web応募フォームを開設しました。
PC・スマホからも
お気軽にご応募いただけます!



※ご記入いただいた個人情報、当選者へのプレゼントの発送と読者の広場ページへの掲載以外の目的では使用いたしません

https://www.kobelco-kenki.co.jp/inquiry/knews/index.php



ヒント: 現実世界で集めたデータを使って、仮想空間上に“双子”のような環境を再現する技術

答え: □□□□□□□□

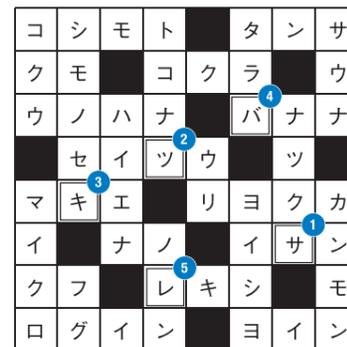
タテのカギ

- 陸地をつくる際、水中を仕切り、その内側の水を抜いて土地を干し上げる方法
- 自分の意見を通して譲ろうとしない「○○○する」
- 太閤秀吉の甥で、八幡山城の城下町(後の近江八幡)を開いた
- 言葉にしなくても互いに分かる「○○○○の了解」
- 「ストリート」「ミスター」「小泉」……
- 舍利殿「金閣」が有名なので金閣寺として知られる
- プライバシーへの配慮などから本名の代わりにつけられる
- 「トビ」「アカ」「イトマキ」といえばなんの種類?
- 滋賀県の面積の約6分の1を占めている
- 永世中立国の1つ
- 「木綿」の読み方、「もめん」「さわた」「○○」
- 武士の時代の褒美といえば?

ヨコのカギ

- たどたどしいものの言い方
- 近江八幡のモデルは、織田信長が築城した○○○城の城下町
- 「小犬のワルツ」「別れの曲」「幻想ポロネーズ」で有名な作曲家
- 占いに用いるカードの一種。全部で78枚
- フランス語で「流行」の意で、ファッション業界では「流行の最先端」を指す
- かけ算の一覧表。唱えて覚える
- スイカ、トウモロコシ、枝豆、トマト、キュウリといえば「夏の○○○」
- 七夕の伝説に登場する女性。美しい織物を織る
- 1ドル=100円が110円になると「○○安」
- 「牛乳」「一升」「リターンナブル」といえば?
- なにも分からなくなるほどひどくお酒に酔う
- 人形などが話しているように思わせる「腹○○○○」
- 春に見かける薄い黄緑色の和菓子。色や見た目があの鳥にそっくり

Vol.260 クロスワードパズル 正解発表



正解は「サイキョク」でした。多数のご応募ありがとうございます。

Wチャンスのお知らせ

Vol.259~Vol.261にお寄せいただいたすべてのはがきを再抽選、50名様に記念品をプレゼントいたします。パズルへのご応募のほか、ご投稿、ご意見など、どうぞお気軽にお寄せください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます

編集後記

そろそろ夏が終わる……と思いきや、暑い日がまだまだ続く今日この頃です。今号は株式会社キング様の取材に参加し、初めて宮崎県に足を運びました! 緑豊かな街並みと青い空は、とても穏やかな気分させてくれました。街路樹は背の高いヤシの木がずらり、これが常夏の国・宮崎……! ヤシの木ってなんだかワクワクします! ワクワクするといえばプレゼント、今回のA賞はコベルコ建機とG-SHOCKのコラボレーションです! ブラックにコベルコ建機のブルーグリーンが最高にクールです。これをつけるとう人気者になれるかも!? たくさんのご応募お待ちしております^^ (H.S)

コベルコ建設機械ニュース 夏季号 2023年8月 Vol.261
発行:コベルコニュース編集室
企画・編集:日経BP/日経BPコンサルティング/リミックス